

中国龍泉寺から訪問

大本山妙心寺塔頭靈雲院の則竹秀南住職の紹介で18日、花園大学国際禅学研究所に中国北京の龍泉寺僧侶4人が来所した。4人は江戸時代の無著道忠禅師の未公刊資料や、同研究所が進めている無著禅師の著作のHP公開について柳幹康副所長の説明を受けた(写真)

◎同寺は1000年以上前の遼の時代に創建された。2004年に信者たちの願いを受け入れ、中国佛教協会会長の学誠法師が同寺で僧団を結成。戒律に関する文献の校勘や大蔵経の電子化のほか、近年は人工知能を搭載したロボット僧の開発でも知られている。則竹住職は同寺を3回ほど訪問しているという。「今回は若く今後に期待される中国の僧侶が清規を学ぶに來られた。僧侶として伝統あることを勉強するのは素晴らしいこと。ただ勉強だけでなく実践もしたいといけない。一朝一夕にはいかないが彼らには日本にしかないものを学んでほしいと話した。日本の僧侶も彼らから学ぶべきところはたくさんある」と話していた。

